# 【文学部　学部間協定留学】留学報告書

| | |
|---|---|
| **記入日** | 2026 年 6 月 30 日 |
| **所属** | 史学地理学科アジア史専攻(学科/専攻) |
| **留学(渡航)した時の学年** | 4 年生 |
| **帰国年月日** | 2026 年 6 月 10 日 |
| **明治大学卒業予定年月** | 2027 年 3 月 |

## 留学先大学について

| | |
|---|---|
| **留学先国** | 台湾 |
| **留学先大学** | **国立台湾大学**(日本語名)<br>**國立臺灣大學**(現地言語名) |
| **現地使用言語/ 授業使用言語** | 中国語/中国語、英語 |
| **留学期間** | 2026 年 2 月～2026 年 6 月 |
| **留学先大学で在籍した学年** | 年生 |
| **留学先の所属学部等** | ☒特定の学部･研究科等に所属している(以下に学部等名を記入)<br>※学部等名(日本語):文学部歴史学科<br>(現地言語での名称):文學院歷史學系<br><br>☐特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している<br>☐その他: |
| **形態** | ☒国立 ☐公立 ☐私立 ☐その他: |
| **学年暦**<br>記入例:1 学期/4 月上旬～7 月下旬、<br>2 学期/9 月中旬～2 月上旬 | **1 学期**:9 月上旬～12 月中旬　　**2 学期**:2 月下旬～6 月中旬<br>**3 学期**:　　～　　**4 学期**:　　～ |

| 留学費用 | | | |
|---|---|---|---|
| 留学費用項目 | 現地通貨<br>（台湾ドル） | 日本円 | 備考 |
| 授業料 | | 円 | |
| 宿舎費 | 19,000 | 85,000 円 | 大学の寮 |
| 食費 | 35,000 | 175,000 円 | |
| 図書費 | 10,000 | 50,000 円 | |
| 学用品費 | | 円 | |
| 携帯・インターネット費 | 2,000 | 10,000 円 | |
| 現地交通費 | 2,000 | 10,000 円 | （☐大学まで徒歩・自転車） |
| 教養娯楽費 | 5,000 | 25,000 円 | |
| 被服費 | 2,000 | 10,000 円 | |
| 医療費 | 2,600 | 13,000 円 | 渡航前の健康診断 |
| 保険費 | 7,400 | 37,000 円 | 形態：明治大学の海外保険 |
| 渡航旅費 | 16,000 | 80,000 円 | |
| ビザ申請費 | 600 | 3,000 円 | |
| 雑費 | 5,000 | 25,000 円 | |
| その他 | | 円 | |
| その他 | | 円 | |
| 合計 | 104,600 | 523,000 円 | |

## 渡航関連

**渡航経路**

**往路　出発地：**東京成田　**目的地：**台北桃園　**経由地：**

**復路　出発地：**台北桃園　**目的地：**東京羽田　**経由地：**

**渡航費用**

① 往復チケットを購入した場合
航空会社：

料金：

② 片道ずつチケットを購入した場合
往路　航空会社：Flyscoot　　料金：

復路　航空会社：Tigerair　　料金：　　∴合計：80,000

**航空券購入方法**

☐旅行代理店（店名：　　）

☒インターネット（サイト名：携程旅行）

☐その他（　　）

## 滞在形態関連

**1)種類(留学中の滞在先)**(例:アパート、大学の宿舎など)

☒学生寮(寮の名前:圓通雅築國際學社)　☐アパート　☐ホームステイ

**2)部屋の形態**

☐個室　☒相部屋(同居人数 4)

**3)共有部分**

☒バス　☒トイレ　☒キッチン(☒自炊可　☐自炊不可)

**4)住居を探した方法:**

学生寮の抽選(留学申請書に記入)

**5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)**

年中暑いので、熱中症対策が必要です。
台北は東京と比べて電車の路線数が少なくて、よくバスで移動します。バスの線路によっては一時間に一本しかありませんので、逃したら大幅に遅刻してしまいます。

## 現地情報

**1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。**(例:現地の病院、学内の診療所)

☒なし
☐あり(治療を受けた場所:　　)

**2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。**
(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☒なし
☐あり(問題の内容や相談した人等:　　)

**3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?**

台湾は治安が良いので、犯罪には遭いませんでしたが、何回か交通事故に遭いそうなことがありました。

**4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。**
(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮のインターネット接続が不安定でした。プリペイド SIM は 5G が利用不可でした。

**5)現地での資金調達はどのように行いましたか?**(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

コンビニの ATM を利用して、三井住友銀行のクレジットカードで現金を降ろしていました。クレジットカードでの支払いもたくさん利用しました。

**6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。**

特にありません。年中暑いですので、夏服以外は持っていく必要がありません。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

| 1)留学先で取得した単位数合計 | 本学で認定された単位数合計<br>※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。 |
|---|---|
| 3 単位 | ☐ 単位<br>☒単位認定の申請はしません(理由:すでに卒業要件を満たしている) |

**2)履修登録の時期・方法及び履修制限**

☒出発前 ☐出発後
☐派遣先大学の事務室 ☒オンライン ☐メール ☐その他( )
☐履修の制限があった:

**3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。**

| 履修した授業科目名(留学先大学言語): | 履修した授業科目名(日本語): |
|---|---|
| 戦後臺灣政治史 | 戦後台湾政治史 |

| | |
|---|---|
| 科目設置学部・研究科 | 文学部歴史学科 |
| 履修期間 | 1 学期 |
| 単位数 | 3 |
| 本学での単位認定状況 | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) |
| 授業形態 | 講義(チュートリアル、講義形式等) |
| 授業時間数 | 1週間に 150 分が 1 回 |
| 担当教授 | 吳俊瑩 |
| 授業内容 | 1945 年から 1990 年代初頭にかけての台湾の政治史の展開、とりわけ白色テロの歴史。 |
| 試験・課題など | 平常点 10%+課題(公開講座感想文と読書感想文)10%+グループ発表とグループレポート 20%+中間試験 30%+期末レポート 30% |
| 感想を自由記入 | 課題量が多かったですが、戦後台湾史についてきちんと勉強することができました。先生は親切でまじめな方で、どの課題も丁寧にフィードバックしてくれました。 |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語): | 履修した授業科目名(日本語): |
|---|---|
| 中華人民共和國史: 來自普通人的觀點 | 中華人民共和国史:一般人の視点から |

| | |
|---|---|
| 科目設置学部・研究科 | 文学部歴史学科 |
| 履修期間 | 1 学期 |
| 単位数 | 聴講のみ |
| 本学での単位認定状況 | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) |
| 授業形態 | 講義(チュートリアル、講義形式等) |
| 授業時間数 | 1週間に 150 分が 1 回 |
| 担当教授 | 羅士傑 |
| 授業内容 | アメリカ大学の歴史授業に倣った中華人民共和國史の授業で、一般大衆の日常生活の変容に焦点を当てる。 |
| 試験・課題など | |
| 感想を自由記入 | 先生はアメリカで講師を務めた経歴を持ち、授業をアメリカ式で行われます。100 分間の講義が終わると、アシスタントの下で 50 分間の討論が行われます。様々な意見を聞くことができて、非常に勉強になりました。 |

| 履修した授業科目名(留学先大学言語):<br>海峡兩岸關係史二 | 履修した授業科目名(日本語):<br>中台関係史二 |
|---|---|
| **科目設置学部・研究科** | 文学部歴史学科 |
| **履修期間** | 1 学期 |
| **単位数** | 聴講のみ |
| **本学での単位認定状況** | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) |
| **授業形態** | 講義(チュートリアル、講義形式等) |
| **授業時間数** | 1週間に 100 分が 1 回 |
| **担当教授** | 李君山 |
| **授業内容** | 1949 年に中華民国政府が台湾に移転して以降における、台湾海峡をめぐる対立、台湾における中華民国の政治的・社会的展開、米中台関係。 |
| **試験・課題など** | |
| **感想を自由記入** | 先生は博識で話が面白いです。昔の授業の録画がアップロードされていて、毎回出席しなくても大丈夫です。 |

## 卒業後の進路について

**1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)**

☐就職 ☒進学 ☐未定 ☐その他:

**2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など**

大学院アジア史専修のゼミを履修しており、大学院生の先輩方から研究のノウハウを学び、大学院進学に関する話をたくさん聞きました。

**3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えて下さい。また、その企業を選んだ理由も教えて下さい。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)**
**※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えて下さい。**

**4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。**
**(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)**
**※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。**

**5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えて下さい。**

東京大学大学法学政治学研究科総合法政専攻(出願済み)、京都大学人文科学研究所研究生(受入承諾)

**6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。**

大学院入試の試験対策はもちろん重要ですが、やはり研究能力の向上が一番重要だと思います。研究能力の向上には、論文・専門書、留学、研究会の参加などが有用です。

**7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。**

## 留学に関するタイムチャート

**留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。**
**(例:語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)**

| | | |
|---|---|---|
| 留学開始年の前年 | 1 月 ～ 3 月 | |
| | 4 月 ～ 7 月 | |
| | 8 月 ～ 9 月 | 9 月、留学の出願。 |
| | 10 月 ～ 12 月 | 10 月、選考。12 月、ビザ取得、航空券の購入、健康診断など。 |
| 留学開始年 | 1 月 ～ 3 月 | 2 月、渡航、留学開始。 |
| | 4 月 ～ 7 月 | 4 月、中間試験。6 月、期末試験、留学終了。 |
| | 8 月 ～ 9 月 | |
| | 10 月 ～ 12 月 | |
| 留学/帰国年 | 1 月 ～ 3 月 | |
| | 4 月 ～ 7 月 | |
| | 8 月 ～ 9 月 | |
| | 10 月 ～ 12 月 | |

## 留学体験記

※ *この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。*

台湾留学を選んだ理由は、大学院入試を準備するためです。私は台湾の歴史を勉強しており、大学院に進学して台湾研究に取り組むつもりです。志望の大学院に出願するために、研究計画書と論文を作成しなければなりませんが、研究に不可欠な史料はほとんど台湾でしか入手できません。また、私の研究領域に関連する優れた研究者は台湾に集まっており、その学術環境は日本では得難いものです。台湾留学中、私は資料収集と研究に没頭して、なんとか納得のいく研究計画書と論文を書き上げました。

抽選に当たって、安くて寮に住めましたが、場所は都心から遠くて不便でした。まず、最寄りの電車駅まで歩いて 20 分で、暑い中で通学するのが大変でした。何回か熱中症になりそうなことがあって、熱中症対策の必要性を痛感しました。

また、台湾は交通環境が悪く、歩道がなかったり、いっぱい原付バイクが歩道に駐車したりしてました。しかも、駅までの歩道がずっと整備中で、車道を歩くしかありませんでした。車や原付バイクが歩行者の隣を通っていて、非常に危険でした。台湾で歩くときは、歩きスマホが禁物で、周りの環境に注意すべきです。